

相原中学校だより

第2号
H30. 5. 1

生きて働く知識とは

校長 江戸谷 智章

先日、車で家に帰る途中、自転車に乗った小学生がわき道から急に飛び出してきて、危うく大事故になったかも知れないという怖い経験をしました。あと数秒速く路地に差ししかかっていたらと思うと、今振り返ってもぞっとします。

昨今、高齢者による自動車事故がテレビ等で取り上げられていますが、自動車事故の原因の多くが、身体能力というよりはむしろ過信によるものの方が大きいという話も聞くと、単に年齢だけの問題でもないように思えます。

以前、車の免許を取得するのに、日本とドイツでは大きな違いがあるということを知ったことがあります。例えば日本では、運転免許を取得するために、およそ30時間の学科や技能の教習を受講しなくてはなりません。なんとドイツでは、受講初日からいきなり広い通りに連れて行かれて、ハンドルやブレーキ、アクセル等の使い方をその場で教えられると、その日のうちに路上教習が行われるといったことが当たり前にあるのだそうです。

教習所によっては、いきなりアウトバーン（速度制限のない区間もある高速道路）に出て実習するところもあるようで、日本と比べてきわめて実践的です。両国の道路事情が違えば、ドイツでは免許を所得できるまでに最短で6時間という人もいるというから驚きです。

唯一日本より厳しいことがあるとすれば、日本では卒業検定（教習所での最後の実技試験）に失敗しても、合格するまで何度も受け直すことができますが、ドイツでは3回不合格になると3か月待たないと再試験ができないことになっているのだそうです。

言うまでもなく車を運転する以上、交通ルールを知らなくては話になりませんし、車のしくみも知らないよりは知っていた方がもしもの事態にとっても有効です。いずれにしても安全という



面では欠かせないことは百も承知なのですが、その実、知識だけを詰め込んだからといって、安全運転ができるわけではありません。

ドイツの教習所では危険を体得するために、80キロの猛スピードを出して急ブレーキを踏ませ、車をスリップさせたまま目的地点に止まらせるといった、アクロバットの教習をするところもあるというから更に驚きです。

先の小学生のように、信号機のない交差点をスピードも落とさず通過しようとするれば、危険なことは誰でも知っています。けれどそれが「きっと危ないにちがいない」といった、いざという時に実生活の中で活用のできない知識でしかなかったとしたら、そうでない人と比べてとき、その後の生活に大きな差が出てくることは容易に想像できることです。

繰り返しになりますが、本やインターネットを通して知識を得ることはとても大切なことです。けれど、得た知識を単なる知識で終わらせず、その知識を試行錯誤しながらも実際に使って生きて働くものにまで高めていくことが、これからの時代には求められています。そういった意味では私たち大人も、次代を担う子どもたちの良きモデルとして、学び続けていく姿勢を示すことが大切であると思っています。



「これからの時代を生き抜いていくために」

心身の健康育成部 竹中 太一

10年前にはほとんど普及していなかったスマホ、AI（人工知能）、ロボット、EV（電気自動車）、自動運転、VR（バーチャル・リアリティ、仮想現実）、ドローンが当たり前になりつつあります。

先日の保護者会の中で学校長からもあり、実際に最近のニュースや記事でよく目にするようになった、今から10年ないしは15年後の話。

その頃には、人工知能による大失業がやってくると言われています。一説によれば日本人の仕事の半分は人工知能やロボットが行うようになるとか（もちろん人工知能の台頭によって、新たに生まれる職業もあるでしょう）。

しかし、どんなに技術が進歩し、AI、ロボットによる役割が増えてきたとしても、これまで同様、人は人と共存していくこととなります。ロボットではなく、生身の人間とコミュニケーションを取って生活していきます。

だからこそ私は、この多感な時期に、他者と円滑にコミュニケーションを取る基礎を身に付けることが、本当に大切だと考えます。



「いるだけでその場の雰囲気明るくできる、和ませる。あるいはそういった発言・行動がとれる。」

「困っている人がいるから助けよう。」「困っているように見えるけど、今はあえて、見守ろう。」

「暗い表情をしているから声をかけよう。」「明るく見える表情をしているけれど、実は悩みを抱えているかもしれない。」

「自分の意見を主張しよう。」「自分の意見を主張したいけど、全

体の流れを考えてここは発言を控えよう。」

「自分だけが喋るのではなくて、相手の意見も引き出そう。」・・・等々

誰かに対して、優しく温かく協調性を持って、しかし時に毅然と接することができる。激動の時代に柔軟に対応するスキルを身に付けながら、やはり私たちはそうやって生きていかなければならないのだと思います。中学校教育に求められているものは、やはりそういうことなのだと思います。

5月の主な日程

5月

- 1日（火）開校記念日（授業日です）
眼科検診 部活動転部期間～12日
放課後諸活動なし
- 2日（水）朝会 議長講習会
PTA総会委任状
回収メット
- 3日（木）憲法記念日
- 4日（金）みどりの日
- 5日（土）こどもの日
- 8日（火）1年生小中合同引き渡し訓練
いじめアンケート回収
- 9日（水）1年生・あいほら級演劇教室
学級ミニ総会
- 10日（木）生徒会専門委員会
- 11日（金）3年生学習状況調査（英語）
生徒会代表議会
- 12日（土）土曜授業参観
PTA総会 14:00～
部活動保護者会 15:00～



- 14日（月）12日の振替休日
- 15日（火）教育実習開始 2年生内科検診
- 16日（水）学級プログラム委員会
- 17日（木）1年、2、3年対象者耳鼻科検診
生徒会専門委員会
- 18日（金）生徒会代表議会
- 21日（月）1年生心電図検査
放課後諸活動なし
- 22日（火）ブロック長・副会議
- 23日（水）生徒会代表議会
教育相談アンケート
- 24日（木）生徒総会リハーサル
全学年歯科検診
- 25日（金）生徒総会（5・6校時）
- 28日（月）放課後諸活動なし
- 29日（火）3年生・あいほら級内科検診
ブロック長・副会議
- 30日（水）ブロック結団式
教育相談開始
- 31日（木）校納金振込日

